

議事録（要旨）

会議名	姫路市新美化センター建設候補地に関する津田地区住民説明会
開催日時	令和6年2月23日（金） 15時00分～16時30分
開催場所	姫路市環境ふれあいセンター 大ホール
参加者	（参加者）津田地区住民33名 （事務局）農林水産環境局長、環境事業推進室長、環境事業推進室主幹2名、環境事業推進室7名
議題	姫路市新美化センター建設候補地について
資料	姫路市新美化センター建設候補地について

内 容

1 開会あいさつ（農林水産環境局長）

姫路市では令和14年度の稼働開始を目標とする新たな美化センターの整備に向けて取り組んでいる。その建設場所については、環境審議会で審議・答申いただいた選定方法に基づき、副市長を委員長とする庁内組織で約1年間かけて慎重に審議を重ね、今在家の旧南部美化センターの場所を最終的な候補地として選定した。

市内全域を対象に土地を抽出し、様々な角度から設定した項目で選定を行った結果、新美化センターを建設するのに最適であると評価したものである。

新美化センターの整備にあたっては、環境に配慮し安心・安全で安定的なごみ処理が可能な施設とすることはもちろん、新美化センターがまちづくりの核となり、地域の活性化と発展に繋がるような整備を目指していくので、地域の皆さまのご理解をお願いしたい。

今回で2回目の説明会となりますが、1回目の説明の内容に加えて質疑のあった事項についても説明させていただき、意見など伺いたいののでぜひ発言願いたい。

2 議題

・ 姫路市新美化センター建設候補地について

事務局より「資料 姫路市新美化センター建設候補地について」説明

主な意見等

- ・ 新美化センター建設時にも、エコパークあぼしのリフレ・チョーサのような施設ができるのか。

⇒余熱利用施設の一例であり、今後地域との協議の場において意見交換しながら、よりふさわしい施設の検討を進めたい。

- ・ 現在エコパークあぼしに夜間収集のごみは搬入しているのか。

⇒現在夜間収集のごみはすべて市川美化センターに搬入し、エコパークあぼしへは搬入

していない。

- ・新美化センターは市川美化センターの代替施設との認識だが、夜間収集のごみも含め、どこの地区のごみが集まってくるのか。
⇒現段階では決まっていない。道路交通量調査の結果や搬入ルートについての地域の皆さまとの協議をふまえて、効率の良い収集エリアを考えていきたい。
- ・稼働後の搬入車両の説明はあったが、解体工事中の工事車両についてはどう考えているか。
⇒工事の請負業者も交えて説明会を実施するなど、搬出時間や搬入ルート等について、周辺地域の皆さまに丁寧に説明し、協議しながら進めていきたい。
- ・一度ごみ処理施設があったことで評価が高く候補地に選定されたとなれば、今後ごみ処理施設の建設候補地に選定されやすいことが懸念されるが、どのように考えるか。
⇒過去にごみ処理施設があったことだけを理由に選定はしていない。土地所有者等からの情報提供地を含めた市内 32 カ所の候補地の中から、評価基準を設定した上で最も適性のある場所として選定を行った。
- ・「経済性」の得点が他の候補地より高いため候補地に選ばれている。他の候補地で建設した場合と比べ安くなる分が地域に還元されるのか。
⇒新美化センターを核としたまちづくりを進める事としており、地域振興策については、地域の皆さまと意見交換しながら進めていきたい。
- ・他の候補地が建設地となった場合には、旧南部美化センターの建物は解体しないのか。
⇒跡地利用を行わない場合でも、計画的に解体を実施する。
- ・今在家が建設地となれば、市内のごみ処理施設が沿岸部に集中することになるが、津波等の災害が発生した場合のリスクヘッジはどのように考えているのか。
⇒一次選定の中で、災害レベルの高い土地は除外し候補地を選定している。想定される災害への対策を十分に行い、災害が発生してもごみ処理施設としての機能を維持できる施設としたい。また、搬入道路の復旧については、道路管理者と速やかに協議し先行して修復ができるようマニュアル化し、姫路市全体として取り組んでいきたい。
- ・新美化センターでは、ごみの持込み手数料の支払いはキャッシュレス決済に対応するのか。
⇒現在姫路市では全力でデジタル化に取り組んでいるため、対応する方向で検討していく。
- ・新美化センターの処理能力は市川美化センターよりも小さくなるようだが、問題なく処理ができるのか。また、大きい規模の施設で処理した方がダイオキシン等の発生が少なくすむのではないか。
⇒処理能力は、ごみ減量化施策を進めたうえでの令和 14 年目標値を基準としているが、

災害ごみの処理も見込んでいるので、通常のごみ処理は可能と考えている。ダイオキシンについては、大きい施設で処理すれば少なくなるということではなく、ごみ量に応じた適正規模で処理するのが最も効果的と考えている。

- ・新美化センターの年間の稼働日数はどの程度を想定しているのか。

⇒施設規模の算定上は年間280日。実際には施設整備やごみ量などを調整しながら、複数の炉を効果的に稼働させることとなる。

閉会